

加工技術賞に「DBヘッド」「DBリング」

都市デザイン賞は「向山フォレスト」と「横山内科」

豊橋商議所

豊橋商工会議所（磯村直英会頭）

は12日、第11回加工技術賞として「鉄筋こぶと円形リングを用いた、低コスト機械式定着工法『DBヘッド定着工法』」を開発した鉄筋工事業・ディビイエス（豊橋市豊栄町、山本俊輔社長）に贈る、と発表した。第

加工技術賞のディビイエスは、1984年に設立された。建設業における鉄筋

95年の阪神・淡路大震災を契機に、鉄



ディビイエスが開発した「DBヘッド」

22回都市デザイン文化賞は、向山フォレスト（豊橋市向山町、石川誠社長）と、医療法人横山内科（同神明町、横山純夫理事長）が選ばれた。表彰は、24日午後4時から豊橋商議所で開かれる通常議員総会の席上で行う。

筋コンクリート建築物の使用鉄筋量が格段に増加、端末部を定着する技術の改善が求められていた。

同社は、鉄筋こぶを定着具（DBリング）とした新しい機械式継手を考案した。その製品は、異形鉄筋の先端部にDBリングを挿入し、リング両側の鉄筋部を加熱することで、鉄筋こぶを形成する

というもので、汎用性が高く、曲げ加工もなく、建設現場でも製造可能で広く普及する可能性を持っている。さらに、製造の加熱作業は天然ガスを利用することでCO₂発生を抑えることもできる。

現在は、建設工事だけでなく、橋りょう、トンネルなどの土木工事にも活用されるなど、新たな分

野への広がりもみせている。

一方、都市デザイン文化賞の「向山フォレスト」は、向山緑地の新しい文化・スポーツ・生活の多機能複合施設とし



都市デザイン文化賞の「向山フォレスト」(上)と「医療法人横山内科」



て、「建物は横に伸びるレイアウトとし、駐車場を広々と感じさせている。単調になりがちな長方形施設の外観を変化に富んだ窓配置でカバーしている」と評価された。

完工は平成21年4月。施主は豊橋倉庫（石川誠社長）、設計・岸設計（名古屋・岸裕之社長）、施工・オノコム（小

野喬四朗社長）。「医療法人横山内科」は、昭和12年に横山理事長の父親が開業した。現在地では昭和44年、横山理事長が開院した。寸評では「通院の弱者や高齢者に配慮したバリアフリーを基本に、明るく清潔な医療空間となっている。前面ガラスには外壁緑化を施し、夕刻には屋根上の楕

（だ）円形の光の筒がグリーン光を提示している」としている。

完工は平成21年11月。施主は医療法人横山内科、設計・アーチザン（宮田正人社長）、施工・花田工務店（花田邦司社長）。

（鈴木良征）